

本通信は、一般財団法人地域活性化センターが主催する地方創生実践塾in海士町の運営グループと法政大学現代福祉学部保井ゼミナールの協働によって作成・発行されるニュースレターです。

海士町(あまちょう)の教育

海士町は島根県隠岐諸島の中の一つである中ノ島のことで、一島一町です。コンビニも、スーパーもない、信号機もたった一つというとても小さな島ですが、そこには昔からの地域住民の知恵と新たな移住者の視点が融合し、地方創生の分野で今とても注目されている島です。

さて、海士町通信第二号では、海士町の「教育」を取り上げます。海士町は、「魅力的で持続可能な学校と地域を作ること」を目的とした教育魅力化プロジェクトを行なっており、教育には特に力を入れてきました。

その中でも特に有名な取り組みが、海士町唯一の高校である、島前高校で行われている「島留学」です。島前高校の島留学では日本全国、世界各国から生徒を募集しています。これまで北は北海道、南は宮崎まで多くの生徒の受け入れをしてきました。また、島留學生には地域と関わるきっかけとして、「島親さん」がひとりひとりについています。さらに、島前高校では生徒が主体となって、地域をアピールする地域観光プランを競い合う「観光甲子園」というコンテストに出場し、最高賞グランプリを獲得、そのツアーを実現させるなど、地域活動が非常に活発に行われているのも特徴です。このように、海士町では、教育の面から多くの魅力を作り出し、地方創生に取り組んでいます。



濱中香理さん特別インタビュー第2弾 「つながり続ける仕組みづくり」

Q1.高校を卒業し、進学などで島から一度出た人たちがもう一度島に戻ってくるように、島に対する興味を繋ぎ止めるに行っている取り組みなどはありますか？

A1.海士町では、島前高校に通っていた生徒が卒業して島を出たとしても、外から地域に貢献してほしいと考えています。そこで、卒業後に地域に情報が全く入ってこなかったり、地域との関わりが希薄になってしまうことを避けるため、卒業生との関わりを増やす取り組みを行っています。具体的には、家督会(あとど会)という島前高校卒業生会の青年部を立ち上げ、島前高校の卒業生の関わりを増やそうとしています。地域の情報が得られ続けたら、将来的に島に帰ってくることに繋がるかもしれないと思っています。こうした家督会や卒業生の還流・繋がりを強化していくためには、島前として取り組んでいくことが大切ですね。

Q2.現場から見る島留学の利点は何ですか？

A2.元々島に住んでいる人たちは、地元のことについてあまり興味がありません。しかし、国内外いろいろな地域からの島留學生、要するに外部の人たちとともに生活することが、島に興味を持つきっかけ、島のことを見直す機会につながります。このように島以外の人とも関わりを持つことでより多くの発見ができます。

Q3.新型コロナ感染拡大による島留學生への影響はありますか？

A3.島前高校の入学生の半分は島外からの留學生なので、今年の受け入れは難しかったですね。通常なら、入学式では島の保護者となる「島親」さんとの顔合わせなどがあり、その後も「地域に出かけて課題解決」が島前高校の魅力ではあるのですが、ある程度、自粛せざるを得ない状況です。現在の状況下でそこをどう取り戻すかは課題です。

第1号に続き、今回も海士町人づくり特命担当課長の濱中さんにリモートでお話を伺いました。現在、島根県立隠岐島前高校魅力化プロジェクト及び地方創生戦略プロジェクトを担当されています。濱中さんの詳しいプロフィールは第1号をご覧くださいね。



隠岐島前高校卒業生 真野拓哉くんより (法政大学保井ゼミ3年、地域活性化センターインターン)

私は、かつて、島外からきた生徒に島の魅力を訊ねられて何も答えられなかった思い出があります。逆に聞き返すと、「町の人が声をかけてくれること」と言われ驚きました。それって当たり前じゃないの？。自分は島のことを全然知っていないことに気づき、もっと島のことを知りたいと思いました。また、島外から来る生徒は意識が高く意欲的な子が多く、島出身の私の中には、常に「島外のやつには負けたくない」という思いもありました。当初は、アクティブな活動をする島外生に、自身を含め、島内生は気後れして、消極的になっていました。私はそれが悔しくて、生徒会長に立候補したり、学校の探究活動や部活、学校外の活動に自ら飛び込んで行きました。東北の南三陸に、一人でボランティアに出かけたこともあります。

振り返ってみると、探究活動や公営塾でのゼミ、部活、地域活動、ボランティア活動で、いろんな人と出会い、世界の広さを知り、視野が開けた高校3年間だったかなと思います。

海士町出身の島育ちです。自治体推薦で法政大学現代福祉学部に入りました。現在、3年生で、保井ゼミのゼミ長を務めています。また、昨年10月から地域活性化センターでインターンをしています。



本号担当学生による編集後記

お話を聞いたり、調べているうちに島前高校で行われている島留学はとても魅力的な取り組みだと感じました。学生のうちは地域に対する興味などを発掘する機会も限られていますが、島留学ではそのような機会も多くあり、地域の方たちとの交流の機会も多くあります。そのような環境で育った子供たちが島に帰ってきて、地域のために貢献する姿を見ることのできる地域というのは魅力的で持続可能な地域であると感じました。私も高校生に戻れるならぜひ島留学を試みたいです。

法政大学現代福祉学部
福祉コミュニティ学科 保井ゼミ2年
林京佳



法政大学現代福祉学部保井ゼミの集合写真です。2020年4月にゼミに入った2年生で、海士町の地域づくりを深める「地方創生班」をつりました。